

経営比較分析表（平成30年度決算）

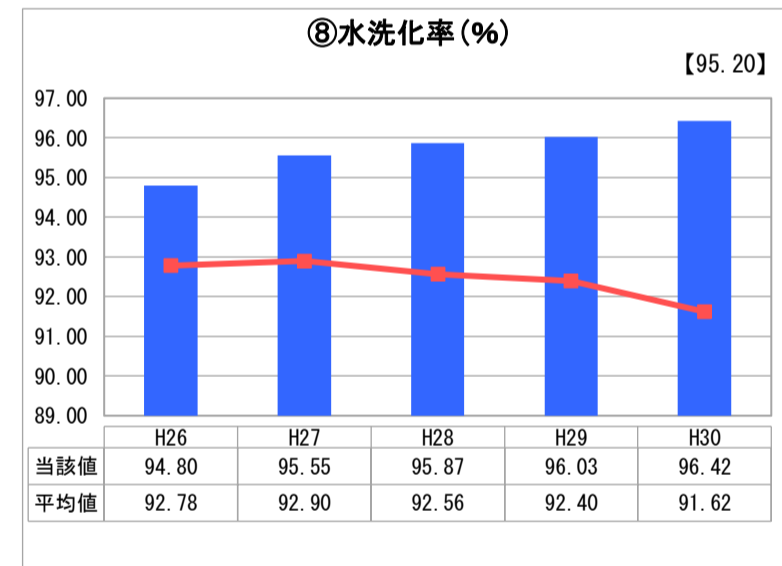
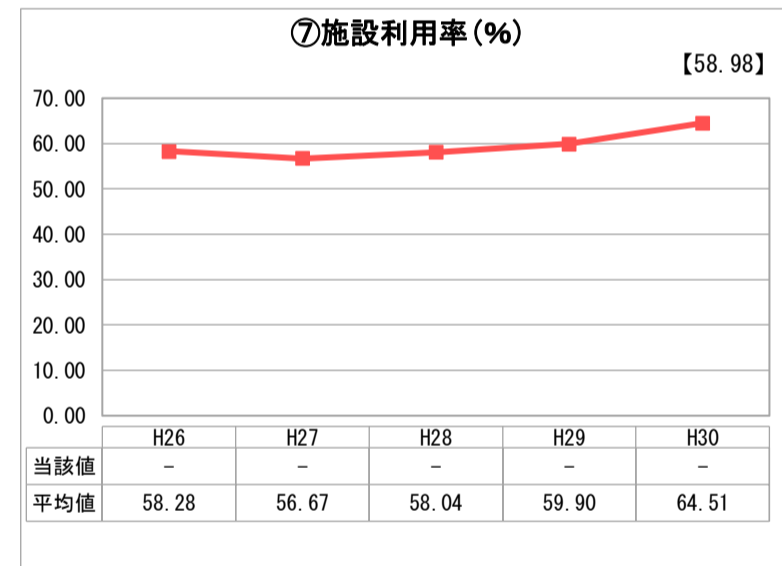
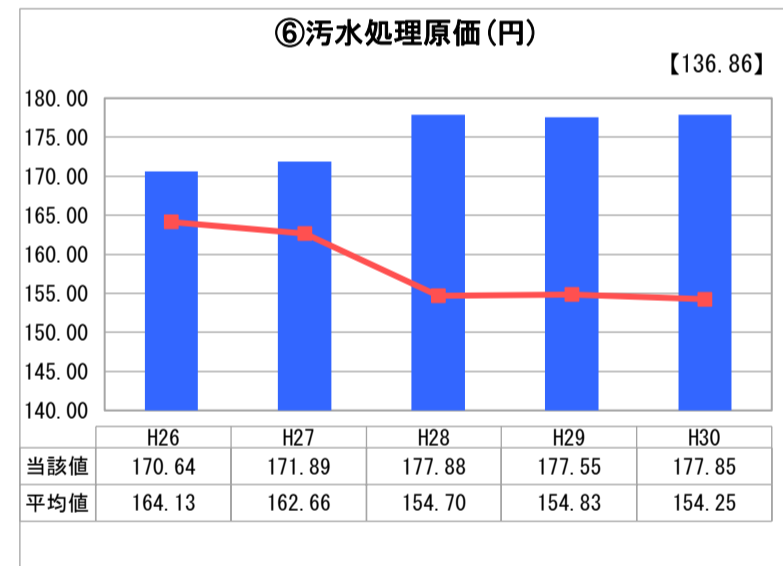
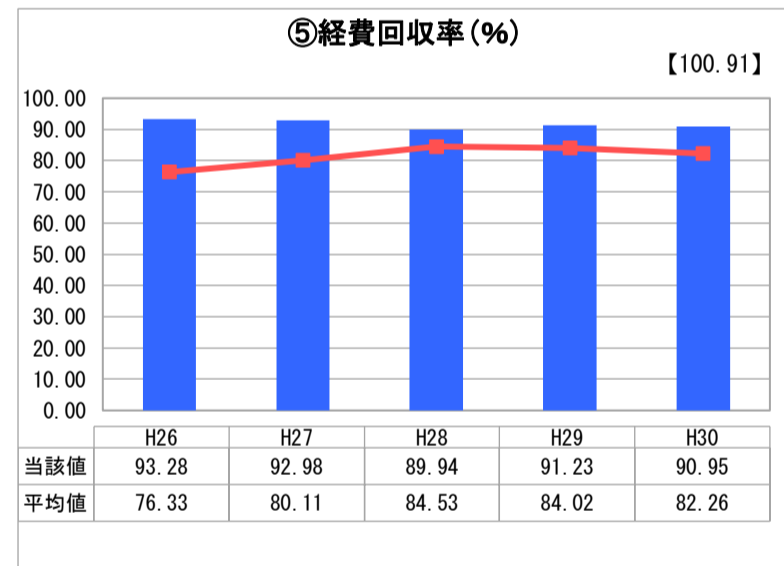
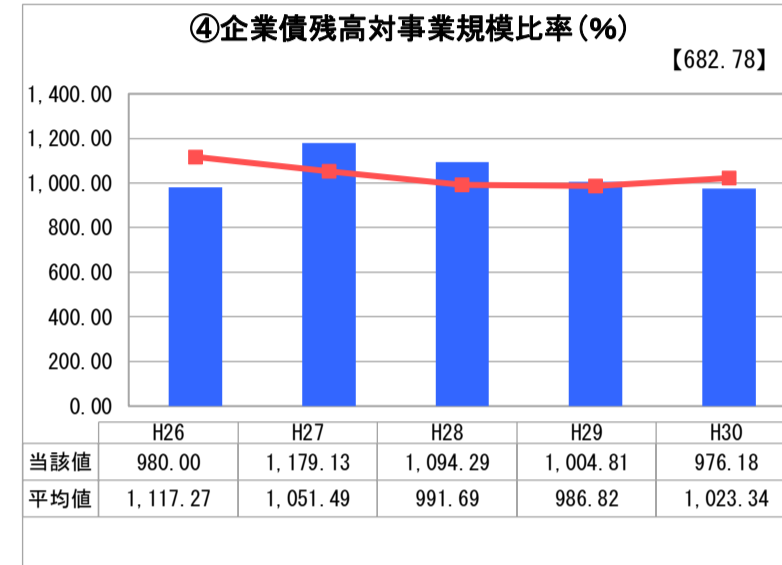
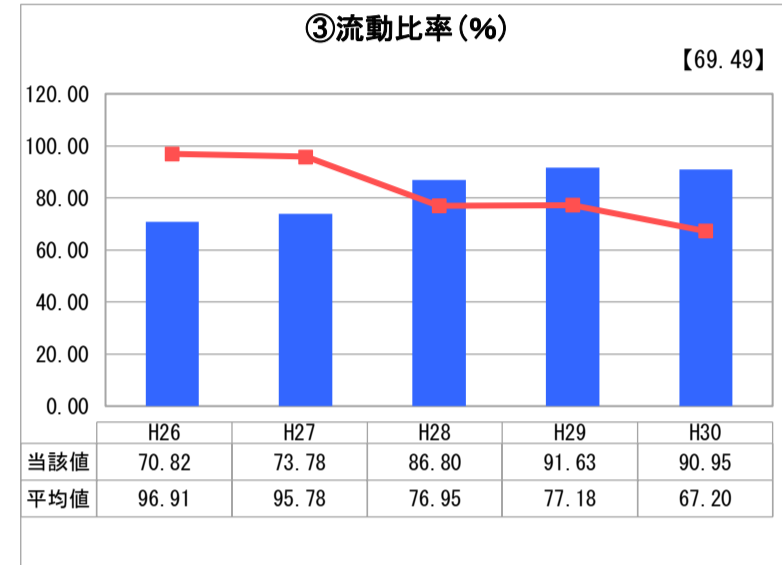
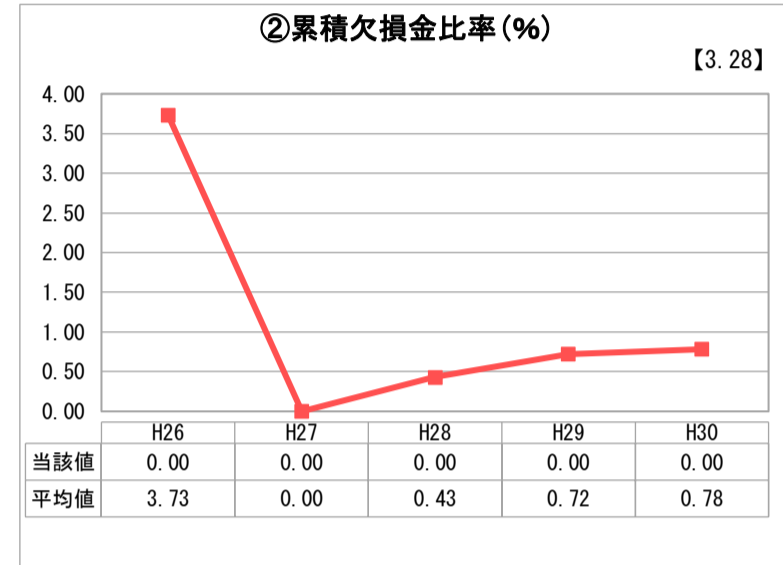
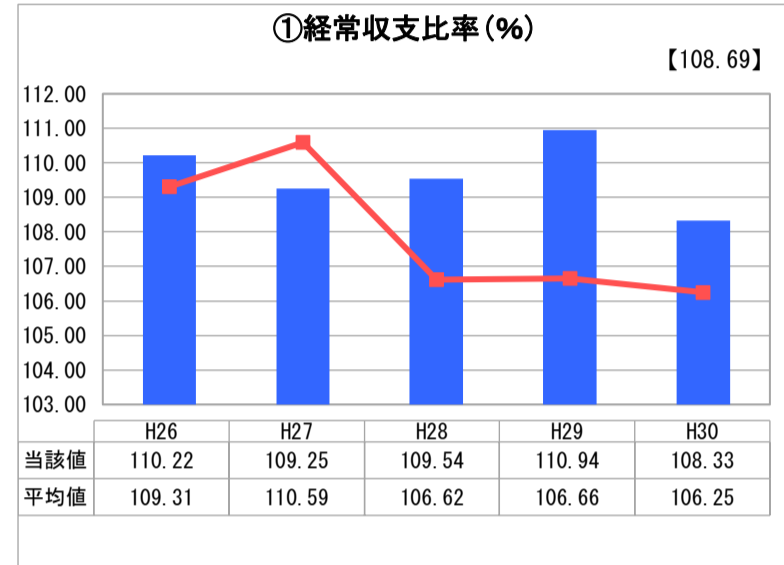
福岡県 粕屋町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	51.09	98.16	94.98	2,700

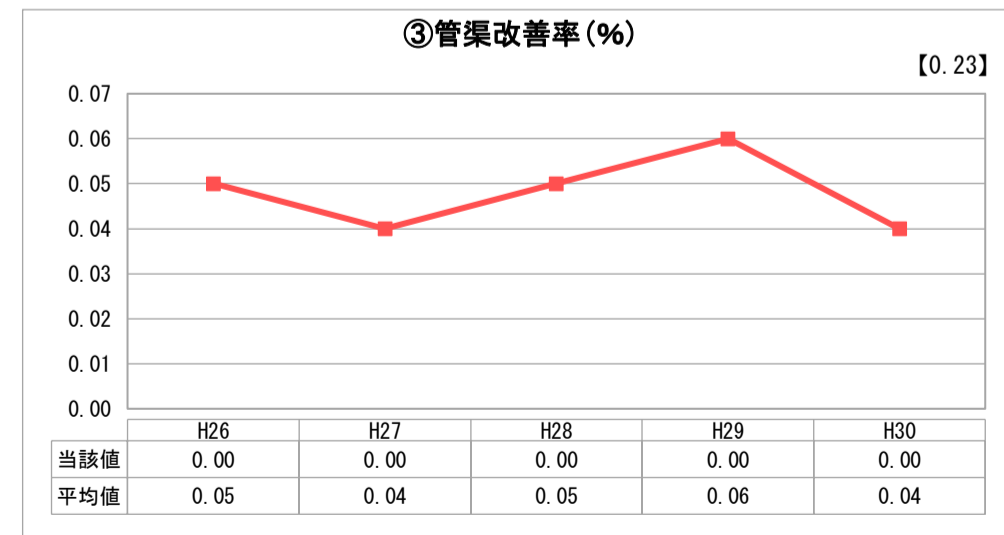
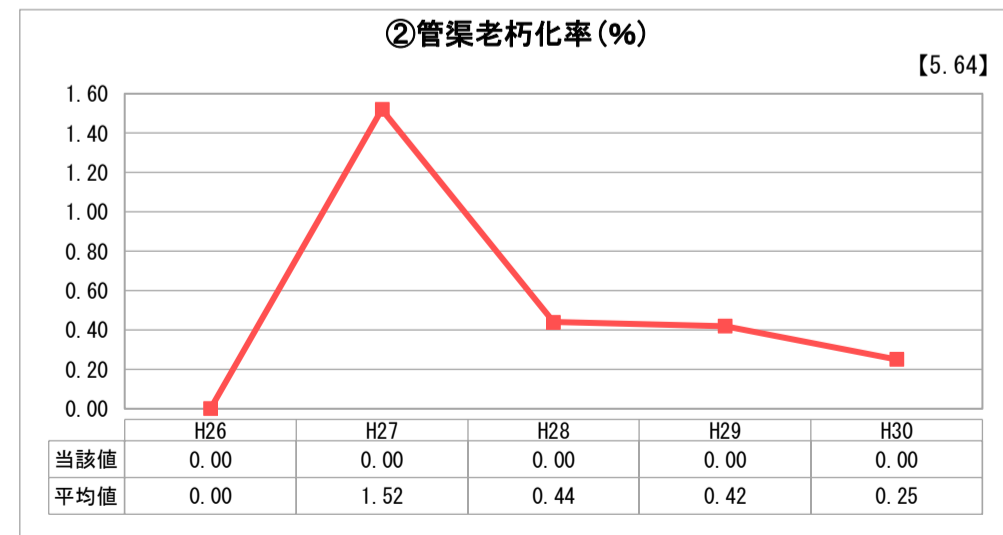
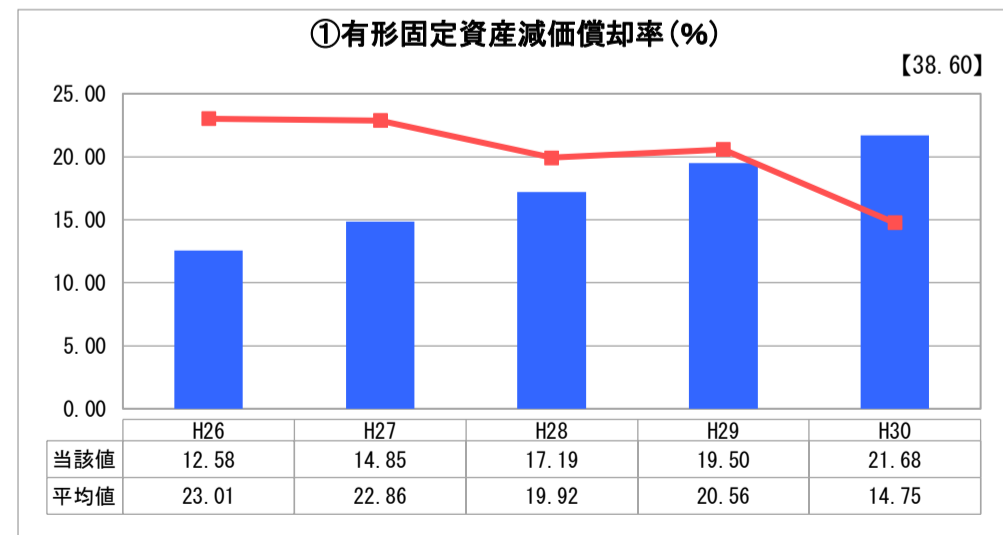
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,658	14.13	3,372.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
46,657	7.40	6,305.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えており、経費回収率は100%未満であるものの、類似団体平均値を上回っている。
また、企業債の償還も進み、企業債残高対事業規模比率も類似団体平均値を若干ながら下回り、改善が見られる。
ただし、水洗化率は96%から伸び悩んでおり、今後下水道使用料収入の大幅な伸びは見込めないため、将来の管渠更新等に備え、留保資金を確保する必要がある。
また、経費回収率・汚水処理原価も昨年度同様改善の必要があるため、今後も引き続き維持管理費の削減、あらゆる効率性を求め取組むことが必要である。

2. 老朽化の状況について

現在、法定耐用年数を超えた管渠等はないものの、老朽化は進んでいるため、更新時期へ向けて、適切な投資計画を立てる必要がある。

全体総括

現在の経営状況は今のところ健全であると考えられるが、収入の柱である下水道使用料の大幅な伸びは見込み難い中、今後の人口増加、将来に向けた管渠等の更新も見据え、経営戦略の見直しを実施し、バランスの取れた計画的な投資を行うことが必要である。
そのため、健全な経営状況を維持できるよう、上記の方策を通してより効率的な経営を持続しなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。